

柳城



発行所
名古屋柳城短期大学
住所
名古屋市昭和区
明月町2-54
発行者
田浦武雄

創立百周年にあたって

理事長
学長 田浦武雄



一九九八年は、柳城学院にとっては、創立百周年の記念すべき年であり、そのための種々の記念行事が行われてきた。
五月二日の記念コンサート、七月四日の聖路加国際病院理事長日野原重明先生の「新しい世紀へ創造と愛を」と題する講演会、一〇月七日の本学音楽教員による音楽会、一〇月一七日の記念式典と祝賀会、一〇月三十一日の記念礼拝と山口大学助教授莊司泰弘先生の「フレイベル思想の今日的意義」と題する講演会、十一月一四日の附属幼稚園三園の子どもたちのための親子劇場等の行事が行われ、多くの方々のご参加を得て、恵まれた会を持つことができた。また『百周年記念文集―思い出』と『目で見る「柳城」の一〇〇年』の写真集を刊行することができた。また百周年を機会に、校舎の増築を行い、奨学金基金を設けることにも着手した。

これからの新しい世紀には、多くの困難が待ちうけていると思われるので、その備えをしなければならぬ。高齢化の傾向が加速化される時代にあつては、介護福祉士の道が広く開かれているとも言えるが、少子化の傾向の増大は地域によっては幼稚園の経営を圧迫し、規模の縮小や廃園に追い込まれるおそれもでてきた。また一八歳人口の激減に伴いそれに依存するかぎり、

短期大学の志願者も減少するおそれがあり、その経営にも大きな試練が訪れる時代となり、社会人等への開放など種々の対応策をたてることが要請されてくる。

柳城学院が創立百周年を迎え、その歴史を省み、「愛をもって仕えよ」（ガラテヤの信徒への手紙五章一三節）の建学の精神を体得し、新しい世紀への歩みを堅実なものにしていきたいものである。愛をもつての「愛」は、アガペーであるが、「仕える」ということの聖書の根拠は、「人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのである」（マルコによる福音書一〇章四五節）という聖句にあると言える。ここで「人の子」と言うのは、イエス・キリストを意味する。また「わたしに仕えようとする者は、わたしに従え。そうすれば、わたしのいるところに、わたしに仕える者もいることになる。わたしに仕える者がいれば、父はその人を大切にしてくださる」（ヨハネによる福音書一三章二六節）と、聖句が教えているように、わたしたちが仕える者となるならば、イエス・キリストとともにいることができる。

次にわたしたちが「仕える」ためには、それぞれの賜物を生かすことが大切である。ペトロが、「あなたがたはそれぞれ、賜物を授けられているのですから、神のさまざまな恵みの善い管理者として、その賜物を生かして互いに仕えなさい」（ペトロの手紙一四章一〇節）と述べているように、賜物を生かして、互いに仕えることが大切である。

このような意味での「仕える」の反対の極にあるのは、独裁的・強圧的になることである。キリスト教系の学校や幼稚園の長となる者は、聖書の言う仕える精神を軽視して、独裁的・強圧的な態度をとることを、最も警戒しなければならない。

新しい世紀へ向けて、神の愛に支えられ、隣人への愛に励むことが重要であり、キリストに示された愛の精神に支えられて、実りのある創造の業に励むことが必要である。柳城百年の歴史と伝統を大事にしながら、新しい世紀を切り開いていく創造的・愛の精神にみちた、より優れた人格となる自己改革を行うことが重要である。

日野原重明先生講演会

「新しい世紀へ 創造と愛を」

去る七月四日に開催された創立

百周年記念講演会で、久しぶりに
お目にかかった日野原重明先生—
三十年も前、私が聖路加国際病
院で働いていた頃とさほど変わっ
ていない様子の日野原先
生にお会いして驚きました—米寿
を迎えられる方とは思えないほど
若々しいことに—
「七十五歳まで生産的な仕事を
することが出来るように、各自で
努力する」。

先生の講演の中でこの言葉が
印象的でした。
糖尿病や心臓病、脳卒中など、
成人病は生活習慣病と呼ばれ、習
慣病にならない工夫を各自で考え
検診を受けて病気の早期発見に努
めることなど……日常生活におけ
る留意点についても先生は話され



「新しい時代に向けて行動する
人間にならなければならない」と
聞くと、先生は、
エレベーターやエスカレーターは
殆ど使用されず、階段を昇り降り
されているそうです。又アメリカ
やヨーロッパなど海外にも度々出
掛けられるそうですが、長時間の
飛行の旅では、スチュワーデスの
許可をもらって飛行機の中の階段
を昇り降りして運動されておられ
るとか—足を鍛えることによって
体の健康を保つといわれているま
すが、先生が自ら実践されている
ことを知り、先生の若さの源はこ
こにあったのだと認識しました。
先生への講演の依頼が二・三年
先まで入っているということ、又
執筆の依頼も沢山あるということ
も聞いています。今迄にも先生は
『老いを創める』『人生の四季を生
きる』『生と死に希望と支えを』
など沢山の著書を出されています
が、これらの本のいずれにも先生
の人生観が著されています。
ご高齢にもかかわらず健康に恵
まれて積極的に人生を歩んでいら
っしゃる先生に感動を覚えます。
「新しい時代に向けて行動する
人間にならなければならない」と



云われた先生のお言葉を大切に、
日々努力して行きたいと思えます。
※尚、この日の講演内容は、一
九九八年度、本学「研究紀要二十
号」に百周年記念として載せられ
る。
(上床記)

ファミリーコンサート

柳城学院創立百周年の記念すべ
き年は、五月二日(土)の記念音
楽会「ファミリーコンサート」に
よって幕が開かれました。

柳城学院が創立百年を迎えるに
あたり、今までに多くの方々に支
えられて来ましたが感謝しお礼
の気持ちを込めて、コンサートを計
画し皆さまをお招きすることにな
りました。

天候の心配もよそに、会場の愛

知県芸術劇場コンサートホールに
は、お客さまをはじめ、同窓生、
附属幼稚園児と家族の方、柳城の
学生等、大勢の方が来てくださ
いました。

はじめに田浦武雄理事長のご挨拶
があり、ひきつづき名古屋フィ
ルハーモニー交響楽団(指揮者、
神原栄)の演奏がはじまりました。
幼稚園の子供達も、お父さんや
お母さんと一緒に、初めて聴くオー
ケストラの演奏を、小さな体いっ
ぱいで聴いていました。

「フィガロの結婚」序曲、「ビー
ターと狼」の曲は、誰もが今まで
に耳にしてきた曲だけに、親しみ
を持って聴くことが出来ました。
「楽器の紹介」では、楽団員の方々
が、いろいろ趣向を凝らしてくだ
さり、演技も交えての紹介に、会
場は笑いに包まれ、楽しみながら
楽器の名前や、音の役割などを知
ることが出来ました。

童謡のメドレーの演奏では、大
人も子供も、みんなで一緒になっ
て唄い、会場が一つになり、まさ
に「ファミリーコンサート」とな
りました。

最後、アンコールに促されて演奏
された「ラデッキ行進曲」では
指揮者、神原栄さんの粋な計らい
で、会場から男の子(附属豊田幼
稚園卒園児の小学校四年生)が指



揮台上げられ、オーケストラの
団員の方達を前に、堂々と指揮を
し、満場の拍手を浴びました。
コンサートが終わり、会場を出て
行く方々は、口々に、「いい音楽
会だったわね」「子供と一緒に音
楽会に来ることが出来るなんて夢
のようでした」「立派なホールで、
名フィルの演奏が聴け最高だった
わ」「たのしい音楽会でしたわ」
と感想をもらっていました。
ファミリーコンサートは、皆さ
んに喜んで頂け、又満足いただけ
たようです。この音楽会は、家族
や友人と一緒に参加出来たことに
大きな意味があったと思います。
一粒の種が播かれた百年前、誰
が創立百周年の記念すべき日を迎
えることを予測したでしょうか。
創立百周年を迎えるにあたり、
大きな喜びと共に、責任の重さを
感じました。

百周年記念式典

柳城学院の創立百周年記念式典が十月十七日（土）名古屋国際ホテルにおいて行われた。

午後二時から三時まで記念感謝礼拝が捧げられ、三時十五分から五時まで記念祝賀会が開かれ、雨天候であったが、そこにはおよそ三百人の人が参集した。

＊

当日の記念感謝礼拝では、中部教区主教の森紀旦師父より、『マルコによる福音書』第六章三十一、四四節に基づいた説教がなされ、その中で特に神様が創設者マーガレット・ヤング女史を通して日本人の一人に示された、その内臓を



震わせるような奥深い憐れみの心（スプラUNKニゾマイ）がこれまでの歴史を通して働かれたこと、そして今も働き続けていること、そしてこれからも強く働き続けることの希望を語られた。

田浦武雄理事長・学長の挨拶のあと、聖公会関係学校協議会長であり、立教女学院院長であられる鶴川馨先生と、愛知県私立幼稚園連盟会長であられる石田正城先生のお二人より祝辞を頂いた。

さらにヤング先生が一九四〇年に亡くなられた直後に柳城第二代校長であるノラ・ボーマン先生がカナダのクリスチャンに向けて書かれた新聞の記事が朗読され、それを通して、最晩年にヤング先生が日本に戻って来られたことの中に日本に対する深い愛が示されていることを私たちは感謝をもって共有しつつ、最後に先生の愛唱歌である聖歌第三四六番を歌った。

＊

また続く記念祝賀会では、名古屋私立幼稚園協会長の吉田敬岳先生と名古屋市民間保育園連盟の副会長下里金一先生からお言葉を頂いたあと、京都教区主教である武藤六治師父の乾杯の発声により、恩師の先生方、同窓生の方々、そして現職の教職員はしばらくの間ながやかな時を過ごした。

そしてその中で、ほとんどの同窓生にとっても先生であられる野中芳子先生や、卒業生であり料理家として活躍されている辰巳芳子先生をはじめとする、柳城に縁の深い幾人かの方々から温かな言葉を送った。

＊

△愛をもって伝えよ△という柳城の建学の精神が、私たち一人一人の心の中でいつまでも生き続けることを祈りながら、また百周年のキャッチフレーズである△新しい世紀へ 創造と愛を△という言葉の通り、この記念式典行事が新しい世紀に向かっての柳城の歩みの一つのステップになることを心から願ひながら、みんなで最後に校歌を斉唱して閉会となった。

（菊地記）

音楽研究発表演奏会

十月七日は朝から激しく雨が降っていたが、学生も教職員も憂鬱どころかとてもわくわくしていた。

名古屋青少年文化センターのアービオホールにおいて創立百周年を記念した本学音楽教員によるコンサートが行われるのである。いつもは先生方の前で緊張してピアノに向かう学生も当日は立場が逆転。笑顔で会場へ向かった。

田浦学長の挨拶で幕が開いた。最初の演奏者は鈴木先生と安藤先生である。美しいドレスに身を包んだ先生の姿に会場から感嘆の声が上がった。2台のピアノが織りなす「ラブソディーインブルー」

の華麗な旋律に私達はうっとりとして聞き入った。鷺野先生の伴奏によつて樋渡先生のソプラノ独唱は「かやの木山」、オペラ「ランメルモアのルチア」から「あたりは沈黙に閉ざされ」など4曲であった。

ホールいっぱいになり、ときに優しくときに激しく響く歌声に観衆は酔いしれた。続いて岡本先生のピアノ独奏、2台のピアノを使つての塚田先生と尾関先生による連弾が披露された。先生方の指先から生まれる美しい音色、魔術の様な指の動きに私達は時を忘れた。そしてついに待ちに待った野々垣先生の登場である。またも会場にどよめきの声が上がった。先生はいつも颯爽としておられるが盛装した先生は一層ダンディーであった。

曲目は「菩提樹」「魔王」など5曲であった。鷺野先生の奏でるピアノの調べにのって先生の歌声は高く低く私達の心に入りこんできた。印象深かったのは「魔王」である。Mein Vater, Mein Vaterと必死に訴える幼い子ども、ささやきかける魔王、子どもを抱

きしめ馬を走らせる父親。息づまる様なピアノの響きと表情豊かな歌声からその情景が生生きと伝わってきた。

感動のひとつときであった。あれから幾日も過ぎたが研究室の前を菩提樹や魔王を歌いながら通り過ぎる学生がいる。学生の心にはきっとあの日の先生方の姿が浮かんでいるのだろう。そして私もまたあの素晴らしいコンサートを思い出すのである。

開催に漕ぎつけるまでには先生方の多大な御苦労があったと推察されますが、それをいとわず私達に素晴らしい時間を与えて下さったことに心から感謝を申し上げます。（中根記）



創立百周年 記念礼拝・講演会

十月三十一日(土)は、本学の

学生を対象とした表記の催しが行われた。十時より記念礼拝において学長式辞があり、森主教より祝辞を頂いた。また、第二代校長ボーマン先生のヤング先生への追憶文(ヤング先生逝去の際、発行された記念誌に載せられた)が、専攻科、石野珠子さんの朗読によって紹介され、ヤング先生のご人格とその偉業を偲んだ。

続いて、山口大学助教授、荏司泰弘先生による「フレイベル思想の今日的意義」と題された記念講演会が行われた。先生は、四百人分のレジュメを用意して下さり幼稚園創始者F・フレイベルのキンダー・ガルテン(子どもの園)が、地上に天国を築こうとした「庭」であり、その「庭」に込められた深い意味を具体的にお教え下さった。

本学の創立者M・ヤング先生は、J・K・Uの年次報告書に「幼稚園の庭」という論文を寄せられているが、その中に「私たちは、この庭から年間プログラムの全てを取り出しております」との文通り、先生の目指された幼児教育は、



「庭」である幼稚園は、汲めど尽きぬ泉のような豊かな庭・園であり、そこで、子どもとおとなが、自然の教科書から、様々な学びをし、究極的には全てのものの創り主を知ること。そして創られたものが自分自身の目的を知り、その栄光を創られたお方に帰すことであつた。それはまさにキリスト者であつたフレイベルが目指したものと同じであるということを再認識させて頂いた。

午後二時からは、例年通り、八事墓地にて創立者墓前礼拝を教職員、学生宗教委員及び有志により行われた。日本と日本人、そして柳城を愛してやまなかったヤング先生の想いが私たちの想いとなり、新たな世紀へ一歩を踏み出すことを誓い合ったひとときであつた。

(尾上記)

三園合同幼稚園観劇会

この観劇の会は、百周年記念の一行事として附属幼稚園三園が共同で企画した「観劇会」でありました。

学院の力を借りてではありませんが、劇団と交渉していただきました柳城幼稚園の佐藤園長と共にあくまでも三園が共同で企画実行するところに意義をもって計画してまいりました。そのために、会場も短大の体育館を借用しての上演ということになりました。

十一月十四日お天気に恵まれ、小春日和となった当日、三園の子どもたちが、保護者の方と一緒にうれしそうにやってきました。大きな会場を見て、子どもたちの期待がさらに膨らんだようです。



田浦武雄理事長の挨拶の後、いよいよ楽しい観劇会が始まりました。

始まると同時に、ピエロに扮した「や・ま・ちゃん」の登場です。子どもたちに語りかけるような流暢な話し方に子どもたちも、私たち大人も、や・ま・ちゃんワールドに引き込まれていきました。

手品を中心に、切り紙、パフォーマンスなどプロの腕前に魅せられました。

ベルを体中に付けて演奏する「ベルリン音楽」。手、足、頭、お腹、胸などを愉快に揺らして「草競馬」「夕焼け小やけ」「ドレミのうた」などを演奏し、笑いの中にも目を見張る技に大きな拍手を送りました。や・ま・ちゃんの人柄に魅せられ、握手を求める子どもたちの姿もありました。

休憩時間を挟み、劇団飛行船による「僕らのうち」が始まり、待ちに待ったぬいぐるみたちの登場です。

狼、きつね、うさぎ、たぬきの四匹がおりなす友情を中心としたお話の中に、狼ときつねのやりとりについたり、爆弾が出てきて驚いたり、楽しく、ハラハラドキドキし、あつという間の出来事のようにでした。子どもたちは思わず

物語の世界に引き込まれ、



「うさちゃん、あぶない」「うしろにいるよ」

「どじな狼さんだね」

と、ステージに向かって声をかけたり、話し掛ける場面もみられました。

カーテンコールでは、動物たちと握手したり、抱っこしてもらったりと、楽しい交わりに満足したようでした。

楽しい時間が過ぎ、附属三園が心をつっにして「帰りの歌」「お祈り」をし、記念の手作りクッキーをプレゼントしていただき、楽しい思い出の一日となりました。

附属三園が一堂に会し、お祈りをするのは初めての光景かと思ひます。このような機会を与えてくださいましたことに感謝いたします。

(瑞穂幼稚園 岡田記)

ヤング先生を偲んで

以下の文章は、柳城第二代校長

であるノラ・ボーマン先生が、創

設者マーガレット・ヤング先生が

亡くなった直後に、**ハザ・カナディ**

アン・チャーチマン」というカナ

ダのクリスチャンに向けて発行さ

れている新聞（一九四〇年七月二

五日）に**ハマーガレット・ヤング**

先生のことについて執筆したも

のであり、一九九八年十月十七日

（土）に行われた柳城学院創立百

周年記念感謝礼拝において専攻科

保育専攻の学生である石野珠子さ

んによって朗読されたものであり

ます。

マーガレット・ヤング先生

カナダ聖公会のミッシェンの歴

史において、開拓期の宣教師の名

前は周囲から尊敬の念を持って見

守られています。婦人補助会の宣



ヤング先生

弱られ、乗船している間
ずっと床についていた。
てはなりませんでした。
実際その弱り方は大変な
もので意識のない状態が
続き、船長は海での葬儀
の準備をしたほどでした。
神様の恵みの中、また先

生
の不屈の意志により、生命の
糸は断ち切れることはなく、十二
月三日、清水さんご夫妻と幾人か
の旧友に横浜港で出合いの喜びを
持つことができました。ただ先生
は話すことができないほど弱って
おられ、聖ルカ国際病院に救急車
で連れて行かれ、最高の看護婦と
最愛の友達に囲まれる中、そこで
最善の看護を受け、少し力を取り
戻されました。

しかし先生の気持ちは名古屋に
ありました。十二月八日には、柳
城保母養成所のある、かつての先
生の家に連れて行かれました。十
八年前に日本を後にしたときと同
じ寝室の同じベッドで休むことは
ヤング先生にとって喜びだったよ
うであります。その年の終わりに
では、体も少し回復され、一日
に何度か三〇分くらいずつベッド
の横の椅子で座ることができるよう
になりました。しかしこの回復
も長続きはせず、一月の終わりに
なるとまた少し悪くなり、私たち
は心配になりました。先生は清水
さんの家に行くことをかねてより
希望しておりましたので、二月初
旬にそこへ移しました。ご自分が
もっとも深く愛していた人に看病
された先生は幸せでした。養成校
と幼稚園の先生、特に福岡先生と
松原先生は、いつでもヤング先生

にとって喜びでありました。幼稚
園の子供たちとご父兄の方、そし
て先生が名古屋で生活していると
き愛をもって教えておられた実
に多くの養成校の卒業生とクリスチ
ヤンの友達が会いにやってきました。
数週間がすぎました。新しい命と
希望を約束する春という季節でさ
え、先生を元気にすることはでき
ませんでした。先生が私たちから
滑り落ちていくという感じを受け
ました。けれども不満や要求の気
持ちはこみ上げてきませんでした。
先生の生涯の最後の月を特徴づけ
るのは、穏やかな諦めの気持ちと
静けさでありました。ヤング先生
をこよなく愛していた日本の人た
ちは、先生がこの世の最後の日々
を自分たちの国に戻ってこられる
ほどに心から愛していたことを知
り、いたく感銘を受けました。数
人の有力な友達が、先生がなさっ
てきたことを市長に知らせました。
そして市の教育責任者が、市長と
市民の名前で、先生に、就学前の
子どもたちの教育における開拓的
な仕事をたたえる手紙を持ち、陶
器に描かれたすてきな絵を携えて
やってこられました。市の代表の
方が清水さんの家に着いたのは、
ちょうどヤング先生が亡くなる一
時間ほど前でした。先生はですか
らご自分に与えられた名誉につい

ては知りませんでした。亡くなる
二週間前、市から問い合わせがあっ
て贈呈のことを知らせてくれまし
たので、あるとき私は半ば冗談で、
子供たちと幼稚園教師養成の仕事
を始めたということで、先生は名
古屋市から名誉をお受けになるこ
とを聞きまして、このように申
し上げますと、そのような名誉に
値することは私には無関係ですと、
一笑に付してしまわれたのです。
ご逝去は一九四〇年三月一九日。
清水さんご夫妻と養成校の卒業生
と先生は、ヤング先生の八三歳の
誕生日である四月一日に葬儀を行
うことにしました。

*

今は亡きヤング先生は、多くの
点で類をみない方でした。先生が
四〇年以上も前に柳城で若い女性
と子どもたちの間で始めた仕事は、
非常に小さいながらも、より高潔
な生き方を求めて流れる清らかな
小川のようにありました。年々そ
の数は増え、幼稚園の先生を目指



ボーマン先生

した養成校の卒業生は、すばらしい、高い志を持った女性として自ら証しをされました。そして生活のそれぞれの領域で、子供たちやその教育を通して、その小川を大きな川に広げてゆき、その水は東は中国から西はカナダやヨーロッパへ届くほどになりました。

ベスタロッチのように、先生の人生は「自分のためには何も残さず、すべてのことを人々のために」という態度を現していたように思われます。数年前、ある日本人がヤング先生は愛を人格化したような方ですねと、言いました。先生にとってこの言葉ほどに大きな賛辞はあるでしょうか。

ヤング先生が日本に来られたとき、大きな志をもった日本の若い人たちは西洋のことを学ぼうと熱心でした。そして先生はその若い人たちに英語で惜しみなくその手助けをしました。けれども先生は神様を知るといふ、より重要なことを求めることを強く勧めました。その生徒の多くはキリスト教の中でも活躍しており、心の響きが魂から魂へと伝わり、永遠に広がり続けるように、その影響はそれぞれの社会的分野で、今、広がっているのです。

ノラ・ボーマン

(訳・菊地伸二)

専攻科ってどんなところ？

保育専攻科Q & A

Q 1 専攻科に入学した動機は？

A 本科を卒業する時、自分に自信がもてなかつたから。

B 仕事で、保育者に実践的な指導をする立場にありながら短大しかでないことに、コンプレックスを感じ始めたから。勉強のやり直しです。

C 正直に言います！まだ働きたくなかつたから(笑い)

Q 2 専攻科の授業の感想は？

A 受け身ではいられない授業です。ポーとしてられない。

B 少人数のゼミ形式なので、自分の意見をもって臨まないとだめだ。

C 少し気をぬいていると、わかんなくなっちゃいます。

Q 3 他大学にも授業を受け行くそうですね。

A はい、愛知教育大、愛知県立大に行ってます。

B 金城学院大に行ってる人もいます。いろんな雰囲気を楽しめます。保育だけでなく、それが逆に良い刺激になっていきます。

C 男子学生がいる！学食でラン

チできる！(笑い)

D お金かかる！(笑えない？)

Q 4 卒業後の進路は？

A もちろん保育現場です。

B もう少し勉強を続けたい、とも考えています。

Q 5 最後に一言どうぞ

A めちゃめちゃ大変！でもすごく充実しています。

C 私、最近弱音吐いています。たすけて！、レポート！(笑い)

B 現場経験後、是非こうして勉強するといひです。卒業生戻っておいで！(叫ぶ)

介護専攻科Q & A

Q 1 専攻科に入学した動機は？

A 介護保険が導入されて、介護の現場にはいつて勉強したいと思ったから。なんと言っても、これからの仕事です。

C 老人施設、身体障害者施設などにいきます。

B 一年の課程で三回(合計八週)の実習期間があるから、三回成長します！(笑)

Q 3 学外実習は厳しいですか

A 厳しいというより、ともかく勉強になります。実習が終わるとみんな成長しています。

B あつ、もちろん医学、福祉、などの理論も学びます。

C 手話、点字もします。

Q 2 専攻科の授業って？

A ざぱり「介護」です！(笑)

B ベットでの体位変換、入浴、介助、おむつ交換、あつ、自分でおむつをあてて、排泄する体験もしました。おむつしてる人の気持ちになって……

C 手話、点字もします。

Q 5 最後に一言どうぞ

A このクラスは年齢の中が広く、勉強になります。

B 私は若い人からエネルギーを頂いています。(笑い)

C とても楽しい雰囲気です。



愛知教育大学で授業を受ける専攻科学生

Q 4 卒業後はどうします

B 主人に勧められて……(笑い)両親を安楽に介護したいです。

C 保育以外の仕事を通して「人間」を知りたかつたからです。

D 大好きな祖母が倒れた時、千分の無力さに気づきました。

Q 2 専攻科の授業って？

A ざぱり「介護」です！(笑)

B ベットでの体位変換、入浴、介助、おむつ交換、あつ、自分でおむつをあてて、排泄する体験もしました。おむつしてる人の気持ちになって……

C 手話、点字もします。

Q 5 最後に一言どうぞ

A このクラスは年齢の中が広く、勉強になります。

B 私は若い人からエネルギーを頂いています。(笑い)

C とても楽しい雰囲気です。

か
A 施設で働きます。
B 地域での在宅ケアに関わりた
いです。

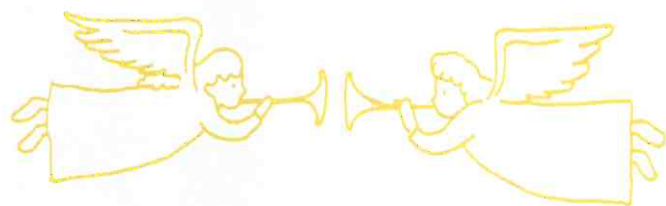
C 私は、まず保育の道に進みます。そして、その後介護の仕事も考えています。

Q 5 最後に一言どうぞ

A このクラスは年齢の中が広く、勉強になります。

B 私は若い人からエネルギーを頂いています。(笑い)

C とても楽しい雰囲気です。



創立百周年記念誌

創立百周年事業の一貫として、
今秋、記念文集『思い出』および
『目で見える柳城』の一〇〇年
が刊行されました。

『思い出』は、卒業生一三一、
恩師二九、現教職員六六、総数二
二六篇、全四三二ページから成り、
柳城への並々ならぬ想いによって
綴られた文集となっています。

卒業生の思い出は、ある時は授
業内容、恩師のこと、友人のこと、
時代や生活のこと、卒業後の働き

についてなど多岐に渡っています
が、その一つ一つを柳城の大切な
宝として共有できたことを共に喜
び感謝したいと思います。ご協力
を心から感謝申し上げます。

また写真集は、百年を端的に目
で見ることができ、より多くの方々
に柳城の歴史を知って頂くという
目的で刊行されました。今まで公
にされなかった個人所有の写真も
ご協力により多く掲載され、保育
史としての資料的な意味を含め、
意義深いものとして評価されてい
ます。

『思い出』は卒業生全員に配付

されることに
なり、順次送
付しています。

また写真集
は、一五〇〇
円（送料込）
で希望者にお
分けしていま
す。お申込み、
お問い合わせ
は名古屋柳城
短期大学歴史
資料室までお
願いいたしま
す。

（水谷記）

同窓会だより

新役員に就任して

待降節を迎え心あらたに、クリ
スマスの心のそなえをする季節に
なりました。

柳城学院百周年おめでとうござ
います。一粒の種が名古屋の地に
蒔かれ神様のお導きで多くの諸先
生方のご指導を受け、四千五百名
余の卒業生を送り出して下さいま
した。その中で今、幼な子のため
に又福祉の場で、そして家庭の中
などそれぞれのあたえられた場で
輝いた日々を送っていらっしゃる
諸姉には、柳城の心を支えとし誇
りとしていらっしやることと思い
ます。「愛をもってつかえよ」の
み言葉が生かされて歴史の一ペー
ジずつが綴られ、また今未来へと
繰りひろげられ、柳城学院がま
ます発展されることを心よりお祈
りいたしております。

この度前赤石会長の後任として
九名のメンバーで同窓会のお役を
お受けいたしました。今まで同窓
会を支え導いていただいた前役員
の皆様は心より感謝申し上げます。
私共、力足りませんが柳城の発展
のために、同窓生の誇りと友愛の
ために皆心を合せてお役に立ちた

いと思っております。

学長先生はじめ関係者の皆様、
同窓生の皆様、どうぞご指導、ご
協力をお願い申し上げます。

（青山記）

新役員名簿

会長 青山 道
副会長 加藤美佐子 軽部 倫子
書記 松本 甫子 平松千鶴代
会計 吉田 和枝 中野 早苗
監査 渡辺 信子 前野 麗子

役員退任にあたって

柳城学院創立百周年記念行事を
すべて盛大裡に終了し誠におめで
とうございます。柳城同窓会（の
ぞみの会）の前会長高田澄子姉か
ら同窓会を引き継いだ時、次期役
員の任期を創立記念のお祝が終る
までと決めました。予定通り同窓
会総会の時に皆様のご了承をいた
だいて、若い世代の方に引き継ぎ
ました。また校舎の建築資金とし
て300万円、及び奨学金基金とし
て200万円を同窓会が協力すること
も皆様のご了解を得ましたので早速
学長先生にお届けしました。なお
校舎の建築の際に心のこもった同
窓会室を用意して下さいました。

私共、力足りませんが柳城の願いが聞き入れ
られ感謝です。同窓会を育て、励
まし力づけて下さる学長先生はじ

め担当者のあたたかい御心を感謝
して早速役員会を開かせていた
きました。柳城の前途が楽しみで
す。百年の歴史が示しているよう
に、道はけわしくても神様の愛に
よって導かれていることを信じて
祈りつつ励んで参りましょう。最
後に忠実に役目を果たして下さい
た旧役員のお名前を感謝をこめて
記します。

会長 赤石百合子
副会長 高田 澄子 小川 和子
会計 原 孝代 飯島 綾子
書記 竹越 恵子 戸谷 保子
監査 菅原美恵子 岩井 綾子

（赤石記）



名古屋柳城短期大学同窓会のぞみの会（1998年10月17日）

飛躍の柳城祭



創立百周年の柳城祭は、百（ひゃく）と飛躍（ひやく）をかけて、By Love Serve飛躍というテーマのもとで行われた。（11月2日・3日）

建築募金

今年の春から、創立百周年記念校舎建設のための募金を同窓生の方を中心に、柳城に関わる多くの皆様にお願ひ致しましたところ、十一月末までに五二六件千八百万円ほどのお金が集まりました。

心から感謝申し上げます。

お陰様で校舎は予定どおり完成し、十月十七日の同窓会のぞみの会総会の後、記念式典会場へ移動するまでの短い間ではありましたが、同窓生の方々に食事と歓談の場所として、新しい建物の一階の学生ラウンジをご利用頂くことができました。

新しい建物の二階は専攻科学生の自習室、図書館の書庫の増設部分、三階は学生クラブ活動の部屋として利用が始まりました。

また、三号館の一部を改修し、同窓会専用の部屋として、ご希望のとおり新たに一室設けることができ、既に数回同窓会の役員会がこの部屋で開かれております。これから有効にご使用いただければと願っています。

改修のなかに、新しい美術演習室と名づけられました美術・造形の部屋があり、学生のために大変役立っています。

最も新しく変貌したのは、中庭だと思えます。土の部分ができるだけ残そうというご意見を尊重し、

短歌の友

田井安曇選

百年

三重 木島 徳治

新聞の一頁ひ百年の歴史を世に問ふ柳城学院
百年の歴史を祝ふ「柳城」の生徒一人に開校せしか
亡き母のわれを祖父母に託しおき学びし母校柳城学院
聖公会新聞から転載。元評議員木島司祭様の短歌です。

一部芝生の部分を設け、そのなかに花壇を造りました。花壇では学生のガーデニングクラブのメンバーが作業し、楽しくクラブ活動を行っております。

創立百周年記念として、このようになすばらしい建物が与えられたことは皆様の暖かい協力のおかげと改めて感謝申し上げます。

この募金の目標額は五千万円となっておりませんが、現在の処目標の四割にも達しておりません。たくさんの方に既にご協力をいただいておりますが、まだご協力いただける方がおられましたら是非よろしく願いを申し上げます。

感謝とお礼と、更にお願ひと云うことになりましたが、短大もまだまだ課題も多く厳しい将来が予想されますので今後とも、お祈りとともに一層のご支援をお願い申し上げます。

(牧岡記)

なお、来年二月一日・二日の両日に「一般入学試験」を実施いたします。



編集後記

(教務課)

二、専攻科入学試験（第一次）
さる九月二十六日に第一回目の入試を実施しました。志願者は「保育専攻」「介護福祉専攻」合わせて、計十八名の志願者全員を合格と決定しました。

なお、専攻科（両専攻）とも、来年二月十三日に第二次の入試を実施いたします。